

編集後記

昨秋の日本地理学会大会で、地理学の人文社会科学系のプレゼンスはどれだけあるかの個人的なりサーチを披露した。それぞれの学界の体力を表わす指標を科研費の獲得件数で代替し比較したものであった。2006年から2010年の5年間の獲得件数では、低いほうからでは、「地理学」195、「建築史・意匠」204、「人文地理学」247、「東洋史」248、となり、近接分野では、「文化人類学・民俗学」346、「地域研究」376、「日本史」445と引き離される。「社会学」では786、「心理学」で1412と、大きく水をあけられていく。もともと他分野に目配りがあり、ある種蛸壺化しない思考が、最近の人文地理学界の流れとなってきたことを頼もしく思うとともに、そうした学界を支える制度的基盤が、こうした科研での劣勢の反映をもって仕分けされ弱体化することは、大変危機的な事態であると恐れている。

本誌のタイトルが示唆していることは、時間軸を有した空間形成、地域の変化に関する記述・分析を、自己のオリジナルなフィールドとしてゆくことの地理学的研究の重要性である。日本はこうした歴史的な意味の埋め込まれた重層空間がもっとも多様に展開している場所のひとつであることは紛れもない事実である。さまざまな意味でそうしたクリティカルな地誌を生産し、地域の今後の創造の道筋に冷静な洞察を与えていくことが大変重要である。今回もそうした意図を有した論文や翻訳で構成されたと自負している。改めて寄稿者のみなさまにお礼を申し上げたい。

引き続き編集協力をいただいている四井恵介さんの(有)地域・研究アシスト事務所に大変お世話になっている。いつものことながらお礼申し上げます。PDFでの閲覧は、下記URLを参照していただきたい。

<http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/geo/ja/pub.html>

「空間・社会・地理思想」第15号編集代表者 水内俊雄

空間・社会・地理思想 第15号

発行日／2012年3月25日

編集／科学研究費基盤研究(B)「グローバル化時代における公共空間と場所アイデンティティの再編成に関する研究」
(研究代表者 高木彰彦)
編集代表者 水内俊雄

編集協力／(有)地域・研究アシスト事務所

発行／©高木彰彦

九州大学大学院人文科学研究院地理学講座

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1

電話 & ファックス 092-642-4476

takagi@lit.kyushu-u.ac.jp

印刷／ホウユウ(株)

<http://www.for-you.co.jp/>
